

「社会を明るくする運動」

県作文コンテスト

入選作品表彰

2月17日、役場において、犯罪や非行を防止し更生を地域ぐるみで支える国民的な運動「社会を明るくする運動」の県作文コンテスト表彰式が行われました。県下の応募総数7,464点中、町内の小学校5・6年生から応募のあった作品のうち、県の審査に3名、町審査に3名の方が入選されました。



(当日は都合により2名欠席されました。)

〔入選作文〕

●長野県入選

「障害を持っている人への差別を無くそう」

富士見小学校6年 伏見日花里

「社会を明るくするために」

富士見小学校6年 北村二未奈

「ごめん」その一言で・・・

境小学校5年 塩沢歩佳

●富士見町入選

「社会を明るくするために」

富士見小学校6年 神崎恵士

「思いやりの心」

富士見小学校6年 篠原未渚

「明るい未来」

本郷小学校6年 田中胡桃

※作文を2回に分け掲載します。
今回は県入選作品です。

障害を持っている人への差別を無くそう

富士見小学校6年 伏見 日花里

私達は、いずれ年をとり、足こしや目、耳が不自由になっていきます。年をとる事だけでなく、病気や事故に合つて後遺症が残る事があるかもしれません。これは、全員にあてはまる事です。なので、障害を持っている人達だけが特別に差別をされてはいけなないと思います。なぜかという、私達だつていつか障害を持つかもしれないし、障害を持っている人もなりたくてなつていないのではないので、笑つたりじろる見たりすると、障害を持つている人が傷ついてしまうと思うからです。それに、もし自分が障害を持った時、周囲の人に、「気持ち悪いね。」と言われたり、通りすぎる時にじろる見たりやそのような顔をされたら、傷つきます。なので、自分がされていやな事は相手にしない事が大切だと思います。実は私には、生まれ付き障害を持っている姉がいます。姉は、自分で食事が出来ず、食べている物はミキサーがけです。トイレはおむつを使い、移動はいつも車イスです。そんな姉を、私達家族や施設の人が介護しています。でも私達に介護できない事があります。それは、「会話」する事です。「会話」する事が出来ないで、病気にかかってしまった時は、どこが痛いのか言えなくて、何もしてあげられないので、姉は苦しうでとてもかわいそうな時があります。でも、会話以外では、介護出来る事も多くあります。それは、日常生活でやる事のほぼ全てで

す。先ほども出た食事や入浴、歯みがき、着がえ・・・色々あります。家での介護は主に母がしていますが、私にも食事などの出来ることは手伝っています。しかし、母や家族がどうしても家を空けてしまう時があります。そういう時は、介護施設にあずける事もありません。この施設があるおかげで、母も私も安心して家を空ける事が出来ます。これは大変ありがたいです。このように、障害を持っている人を受け入れてくれる場所が多くなれば、助けになり、良くなるのかなと思います。

それから、周囲の人達が理解、協力してくれればいいと思います。例えば、公共の場が増える事です。外食も姉といっしょに来るように、カウンスラー席、テーブル席だけでなく、たみみの部屋や、車イスごとすわれるテーブルがあればいいと思います。以前、一度すし屋で姉といっしょに食べました。車イスではいけませんでしたが、でも、店員さんはやさしく受け入れてくださり、他のお客さんもじろる見たり、となりの人とこそそと話す事も無かつたので、とても気分が良かったです。このように、相手の気持ちを考え、差別が無くなり、公共の場所が増えた事により笑顔が増えれば、社会は明るくなると思います。



社会を明るくするために

富士見小学校6年 北村 二未奈

私が旅行に行ったときに、電車にのつていたら、おばあさんに席をゆずっている人がいました。おばあさんは、すぐ嬉しそうでした。私は、そういう思いやりはいいな、と思いました。私は、その人を見習おうと思って、おじいさんに席をゆずりました。すると、とても喜んでくれて、「ありがとう」と何度も言ってくれました。うれしくて、ゆずってよかった、と思いました。思いやりは、人を笑顔にします。思いやって、優しく接すると、相手はもちろん自分も嬉しい気持ちになります。そして、笑顔になります。すると、それを見た人が、自分もやろう、と思つてやると、さらに笑顔が広まります。この「笑顔」が、社会を明るくすることにつながると思います。だから、思いやりは大切です。

でも、思いやりの気持ちを持つていても、それを行動にうつせないことがあるかもしれません。やろうと思つても、なかなか勇気がでないことがあります。私もおじいさんに席をゆずるとき、言おうと思うのに、すぐに声がありませんでした。勇気があることなどないと思います。

勇気が出なくて、思いやりを行動にうつせない、ということがないようにするには、「やろう」と思えるようなことがあることが大切だと思います。例えば電車だったら、優先席があったり、「お年寄りや妊婦さんに席をゆずろう！」というポスターがあれば、思いやりの気持ちが強くなり、行動にうつせると思います。私は、おじいさんに席をゆずれたのは、席をゆずることを呼びかける放送が流れていて、勇気

が出たからです。

このような、思いやりを呼びかけるものをどんどんつくり、増やしていくべきだと思います。だから、その施設で働く人が、できる思いやりを見つけて、呼びかけていくことも大切だと思います。

私は、これからすぐにできることをやりたいと思います。一つは、思いやりを、学校での集団生活でもつとやることです。まだまだ誰かのためにできることがあるはずですよ。できることをなるべくやりたいです。二つ目は、思いやりの言葉をかけてくれたり、なにかをしてもらったときは、「ありがとう」をしつかり言いたいです。そうすることで、相手はすごく嬉しくなり、「やってよかった」「またやろう」という気持ちになると思うからです。三つ目は、あいさつをすることです。あいさつも、思いやりの一つだと、私は考えます。すれちがったとき、何も言わないと少し嫌な気持ちになります。でも、あいさつをしたり、してもらったりすると、明るい気持ちになります。だから、知らない人も、知っている人にも、はずかしがらずに言えるようにしたいです。

この三つのことを、しっかりとやることです。そして、これを自分からやることで、それを見た人に、思いやりの気持ちと行動を呼びかけることになると思います。

社会を明るくするために、思いやりが大切です。そして、その思いやりを実行するために、思いやりの行動を呼びかけることが大切です。そうしてうまれた「笑顔」が、社会を明るくしていきます。

私は、社会を明るくするために、まず「自分でできること」を実行し、続けていきたいです。

「ごめん」その一言で・・・

境小学校5年 塩沢 歩佳

みなさん、けんかしたことありますか？けんかして自分か、相手のどちらかがあやまらないと終わりませんよね。あやまる勇気ですごく大切だと思います。でもそこで、どちらかあやまるのができなかつたら、そのちっぽけなけんかから犯罪などがうまれてしまうと思います。そこで「ごめん」の一言が言えていたらその一つの犯罪はうまれていなかつたと思います。このように、「ごめん」の一言が言えれば、少しでも犯罪はへると思います。私は、けんかには二つあると思います。一つ目は、すぐに仲直りができないけんかです。けんかをひきずり、ちっぽけなけんかが復しゅうに変わり、犯罪になり、死者が出てしまうけんかが少しでもあると思います。そのけんかはたくさん悲しむ人が出てしまいます。なくなつた人のご家族や、犯罪をおかしてしまつた人の家族です。犯罪をおかしてしまつた人だけのことで関係のない人たちまでまきこんでしまい、このけんかからたくさん悲しみをこれからも生みつづけてしまいます。私はそんなのダメだと思います。関係のない人が悲しい思いをすることをこれ以上続けちゃいけないと思います。そのためには、やっぱり勇気を出して「ごめん」と一言、あやまるのが大切だと思います。そうすれば少しでもそのよくなことはへると思います。二つ目は、すぐに仲直りができるけんかです。よく「けんかするほど仲が良い。」と言いますよね。そのことです。たとえ、

けんかしたとしてもすぐに「ごめんね。」と言うことができるからだと思います。だけど、私はこんな体験をしたことがあります。ある日、とても仲が良い友だちとけんかしました。仲直りが出来ないままその日が終わってしまいました。仲直りができなかったとき私はとても心がムズムズしました。だから、このときすぐに仲直りをしようと思いました。すぐに仲直りをすれば心がスッキリするので私は次の日からけんかをしました。この日から、私はけんかをしてしまつたらすぐにあやまろうと思いました。「ごめん」その一言には色々な意味をこめて言っていると思います。一人一人の気持ちをこめた「ごめん」をだれもが言えるように広げ、少しでも犯罪をなくし、悲しみをふやさないようにしたいです。「ごめん」あなたのその一言で何かが変わるかもしれません。今度は、「ごめん」を「ありがとう」に変えていつて世界中にありがとうがあふれるくらいありがとうを広めたいです。そうすれば社会はありがとうがありふれる社会になると思います。犯罪をおかしてしまつた人は今からでも「ごめんなさい。」と罪をつぐないもう一度一からやり直していけばいいと思います。今からでも人生はやり直しがききます。だから、みんな罪をつぐない「ごめんなさい。」ではすまないかもしれないけどこの世の中から少しでも犯罪をなくし明るい笑顔があふれる社会を目指したいです。「ごめんなさい。」「ありがとう。」そして「がんばろう。」

「ごめんね！！オー！」

